

平成22年度における契約状況のフォローアップ

平成23年8月
独立行政法人日本原子力研究開発機構

1. 平成20年度と平成22年度に締結した契約の状況

(単位：件、億円)

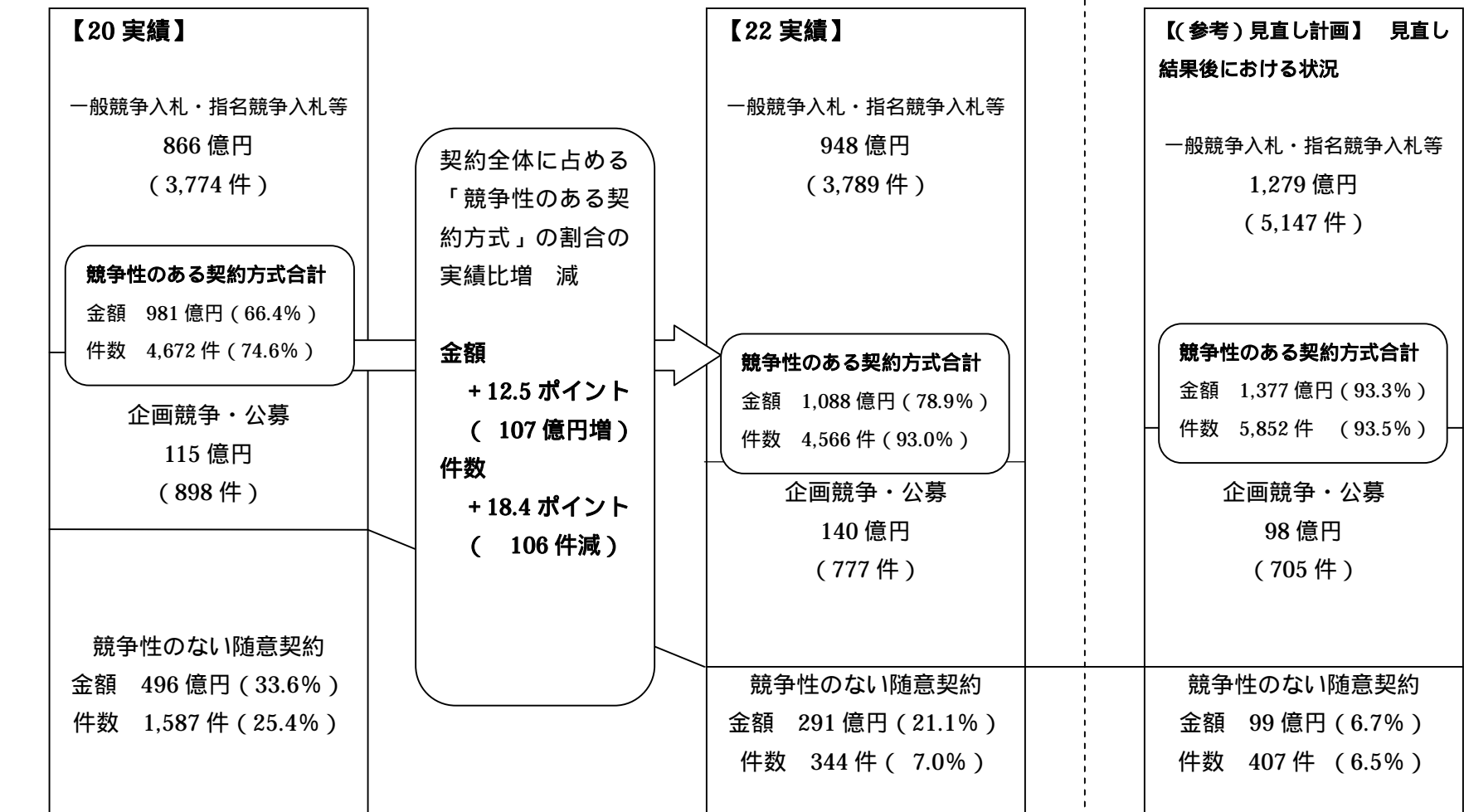
	平成20年度		平成22年度		比較増 減		見直し計画	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
競争入札等	(60.3%) 3,774	(58.6%) 866	(77.2%) 3,789	(68.7%) 948	(0.4%) 15	(9.5%) 82	(82.2%) 5,147	(86.7%) 1,279
企画競争・公募	(14.3%) 898	(7.8%) 115	(15.8%) 777	(10.2%) 140	(13.5%) 121	(21.6%) 25	(11.3%) 705	(6.6%) 98
競争性のある契約(小計)	(74.6%) 4,672	(66.4%) 981	(93.0%) 4,566	(78.9%) 1,088	(2.3%) 106	(10.9%) 107	(93.5%) 5,852	(93.3%) 1,377
競争性のない 随意契約	(25.4%) 1,587	(33.6%) 496	(7.0%) 344	(21.1%) 291	(78.3%) 1,243	(41.3%) 205	(6.5%) 407	(6.7%) 99
合 計	(100%) 6,259	(100%) 1,476	(100%) 4,910	(100%) 1,379	(21.6%) 1,349	(6.6%) 98	(100%) 6,259	(100%) 1,476

(注1) 計数は、それぞれ四捨五入しているため、合計において一致しない場合がある。

(注2) 比較増 減の()書きは、平成22年度の対20年度伸率である。

(注3) 見直し計画の計数等は、「独立行政法人の契約状況の点検・見直しについて(平成21年11月17日閣議決定)」に基づき公表した見直し計画である。

(参考) 図表 平成20年度と平成22年度に締結した契約の状況



(注) 「一般競争入札・指名競争入札等」には、不落・不調の随意契約を含む。

2. 見直し計画に掲げた競争性のない随意契約の割合に到達しなかった主な理由

平成 22 年度において、随意契約見直し計画の見直しの視点に照らし競争性のない随意契約を締結せざるを得ない案件が生じたため。

なお、主な新規案件は、以下のとおり。

ポンプ単体試験体の製作（約 44 億円）

1 次主冷却系等設備点検（約 29 億円）

燃料取扱設備及び廃棄物処理設備等点検（約 15 億円）

3. 平成 22 年度において、随意契約から一般競争入札等、企画競争、公募に移行した主な契約

一般競争入札へ移行

(ア) 平成 22 年度複写機等の基本契約（レンタル） 4.7 億円

(イ) 機械室運転保守業務請負契約 4.4 億円

指名競争入札へ移行

(ア) 高速増殖炉研究開発センター構内及び主建物清掃作業 1.1 億円

(イ) 濃縮ウランの譲渡、核燃料物質の分析等に係る業務 0.9 億円

企画競争へ移行

(ア) 東京事務所賃貸借契約 3.2 億円

公募へ移行

(ア) 大型汎用計算機システム及びプログラム・プロダクトのレンタル 1.6 億円

(イ) プル加工施設地盤安定性評価及び建家耐震性評価業務 1.2 億円

4. 一者応札・応募の改善状況

(単位：件、億円)

		平成 20 年度	平成 22 年度	比較増 減
2 者以上	件数	1,372 (35.1%)	2,133 (55.7%)	761 (55.5%)
	金額	321 (40.5%)	623 (70.4%)	301 (93.8%)
1 者以下	件数	2,536 (64.9%)	1,695 (44.3%)	841 (33.2%)
	金額	472 (59.5%)	261 (29.6%)	211 (44.6%)
合 計	件数	3,908 (100%)	3,828 (100%)	80 (2.0%)
	金額	794 (100%)	884 (100%)	90 (11.4%)

(注 1) 計数は、それぞれ四捨五入しているため、合計において一致しない場合がある。

(注 2) 合計欄は、競争契約（一般競争、指名競争、企画競争、公募）を行った係数である。

(注 3) 比較増 減の（ ）書きは、平成 22 年度の対 20 年度伸率である。

5. 一者応札、一者応募に係る改善方策 (URL <http://www.jaea.go.jp/02/keiyaku/minaoshi-f22-kaizenn.pdf>)